「礼文島国際フィールドスクール」第４回事前学習会

礼文島国際フィールドスクール　第4回事前学習会「発掘調査と資料整理の基本」

講　師：　藤村　俊　学芸員（美濃加茂市民ミュージアム）
日　時：　平成27年8月5日（水）９:00～12:00
場　所：　美濃加茂市民ミュージアム　　対象：調査参加者（９名）

実際の道具や遺物を使って、模擬発掘や資料整理を体験しました。

■ 本日の講師は、美濃加茂市民ミュージアムで考古学を担当している藤村俊学芸員です。
■ 藤村さんから、発掘調査は現場での作業だけではなく、見つかった遺物の分析や研究が大切だというお話を聞きました。
■ 模擬発掘では、ねじり鎌という道具を使って実際に20cmほど掘り下げてみました。草や木の根っこを取り除くのが大変でした。土の色や土の粒度の違いなどを観察し、議論しながら層の区分に挑戦しました。
■ 縄文土器や古代の須恵器、中世の陶器などを分類しました。

発掘調査と整理作業の方法について、スライドで学習しました。

＜参加した生徒の感想＞

■ **今回、約 2 時間掘りましたが、予想よりも作業が進まず、集中力が必要だと感じました。**今回の発掘場所の地層は色が分かりやすかったため目に見えましたが、浜中2遺跡は砂丘であり、より集中力を求められると思いました。
■ 今回の研修では、話を聞くだけでは得られないような知識やノウハウなどを、実際に見て触れたり屋外で活動することによって得ることが出来ました。発掘体験では、本番と同じような調査区の設定や掘削の具体的な方法を、学芸員の方や先生の分かりやすい指導をいただきながら覚えられました。**ひもの張り方や地層の判断方法など、実際に現場に出ていらっしゃる方からでないと学べないようなことがたくさんあり**、とても面白かったです。また、今回は短い時間でわずかな面積を掘るだけでしたが、いかに仲間同士で協力して作業を進めていくことが大切かということがよくわかりました。

まず、スコップで表土を剥いでいきます。

根っこを取り除くのがたいへんです。

■ **本物の土器の破片や石器に触れてみて、その形状や材質などを肌で感じることが出来ました。**

■ 今回の活動では、発掘作業が予想以上に大変だという事が分かりました。 まず、グリットと呼ばれる範囲を決定し、表土を削り、また、そこから**丁寧に土の色や硬さを感じながら慎重に作業を進めていく。 それらの作業はとても大変で疲れる事だと感じましたが、とても楽しい作業だとも分かりました。**

■ **今日の発掘練習で、地層がこの目で見られて、新鮮でした！** 礼文島の発掘でも、この体験を活かしていきたいです。 それに、道具の使い方や、ひもの縛り方を学べて良かったです。本番では、もっと深く掘るし、英語で会話しなくてはならないので、今回よりも大変になるから頑張っていきたいです。

層を分けるために、土を手に取って観察しています。土は粒の大きさから砂質土、粘質土などに分けられます。

色のチャートを見ながら、土の色を観察しています。「この色は暗褐色かな」。土の色について話し合っています。

気づいたことは野帳に書き込んでいきます。

出土した資料を分類していきます。この石器や土器は何時代のものだろう。さまざまな本を参考に考えていきます。